



「輝け！橘っ子」通信

橘小学校ホームページのQRコードです。

学校教育目標「ともに生きる力としなやかに伸びる力をもち、たくましく夢を追求する児童の育成」
めざす学校「笑顔・あいさつ・思いやりがあふれる楽しい学校」

あと4日で夏休みとなりました。先週は、猛暑から始まり週末は大雨と、天気の変化に振り回された1週間でした。暑さと雨のため、子どもたちはほとんど外遊びができませんでしたが、エアコンの効いた教室で読書をしたり、工作をしたりと快適に過ごすことができています。最近では、6年生児童が1年生児童の面倒をよく見てくれています。昼休みには、1年生教室に行き、タブレットの使い方を教えてくれたり、一緒に工作をしたりしてくれています。1年生も6年生のことが大好きの様です。これが橘小学校の伝統。年上の子どもたちが年下の子どもたちをリードする素敵な姿が今後も見られるよう、子どもたちに励ましと感謝の声かけをしていきたいと思ひます。



一緒に遊ぶ6年生と1年生

人権学習の研究授業を実施しました！

今年度、橘小学校は阿南第二中学校区人権教育研究会（通称「ブロック人権」）の会場校となっております。これは、市内の各中学校区の学校が持ち回りて会場校を担当し、中学校区の幼稚園・保育所・こどもセンター・小学校・中学校の教職員が参加して人権教育に関する研修を深めることを目的として実施しているものです。今年度は、11月14日（木）の人権授業参観とこのブロック人権を兼ねて実施する予定にしております。保護者の皆様にはいつも通りに授業を見ていただきますが、授業研究会の対象となる3年生・6年生の授業は、二中校区の教職員も授業を参観いたします。御理解・御協力のほど、よろしくお願ひいたします。

さて、このブロック人権に向けて、教職員は授業研究会を重ねております。これまで7月4日（木）に1年生井〇〇教諭が、7月11日（木）に5年山〇教諭が研究授業を実施しました。その様子を紹介いたします。

7月4日（木）2校時、1年担任の井〇〇諭が「自ら行動できるすばらしさ」をテーマに、道徳教材「二わのこどり」を用いて人権の研究授業を実施しました。「二わのこどり」は「誕生日のお祝いをするやまがら、音楽会の練習をするうぐいすの両方から誘われていたみそさざいが、たくさんとりたちが集まったうぐいすの家を抜け出し、ひとりぼっちのやまがらの家へかけつける」という内容のお話です。

授業では、子どもたちにみそさざいややまがらを演じさせ、登場人物の気持ちに共感させる場面が見られました。演ずる子どもたちからは、「やまがらさん、ひとりぼっちで寂しいだろうな」「誕生日だから、今日行かなくちゃ。」「誰か来てくれないかな。」「来てくれてすごく嬉しいよ。」といった台詞が自然と口をついて出てきており、子どもたちの中に、ひとりぼっちで寂しいやまがらの気持ちに寄り添うみそさざいのような存在でありたい、という気持ちが高まっていました。担任が「クラスにひとりぼっちの友達がいいたらどうする?」と問いかけると、「大丈夫?どうしたの?と声をかける」「一緒に遊ぼうと声をかける」と答える子どもたちの姿に、友達の気持ちを考えて自分から行動を起こそうとする意欲の高まりが感じられました。



みそさざいを演じる児童



みそさざいやまがらになりきる児童



自分の考えを発表する児童



授業の感想を話す児童

7月11日（木）3校時、5年担任の山〇教諭が「ふるさとへ帰りたい」というテーマで、人権の研究授業を実施しました。5年生の子どもたちは、このテーマのもと、かつてハンセン病にかかった人びとが「法律」によって強制隔離され、いったん療養所に入所すると病気が回復しても社会復帰が許されなかったこと、患者さんが一生涯を療養所で過ごし、ふるさとに帰ることができなかったこと、患者さんもその家族も社会から差別を受け続け、今もこの差別が根強く残っていることなどを学習してきました。

11日の授業では、子どもたちは、2003年に起きた元患者さんの宿泊拒否事件を題材にした音読劇を様々な立場の人から演ずることによって、元患者さんたちや患者さんたちを支援する人々、宿泊を拒否したホテルの支配人やこの事件を知った世間の人々、それぞれの気持ちに深く迫り、この理不尽な差別に対する怒りをもつと同時に、無知・無理解・無関心や偏見が差別を生み出すことに気付いていきました。そして、「差別を生まないために自分たちが正しい知識を広めていきたい」「偏見や差別はいじめから始まるから、身近ないじめからなくしていきたい」と、自分たちの決意を語るできていました。



音読劇を演ずる児童



「無知や偏見をなくす勇気をもとう」



「病を理由に隠すのは許せない」



友達と考えを交流する児童

